



亀中だより

No.2 令和5年4月12日 文責 岡田



For The Students!



亀山中学校は市内における外国人生徒教育の「拠点校」として位置付けられ、現在40名ほどの外国につながる生徒が在籍しています。昨年度から日本語初期適応教室「レインボー」が亀山西小学校に開設され、本校で初期適応を行うことは少なくなりましたが、レインボーでの学びを終えた生徒を中心に、日本語指導、教科補充学習を行っています。必然的に本校の生徒は、海外の言語や文化、習慣等に触れる機会も増え、多文化共生の学ぶ機会に恵まれているといえます。亀山中学校としては、日本で学ぶ外国の子どもたちが困ることを少なくするだけでなく、日本人の子どもたちが、他国の習慣や考え方を知り、認め合うことのできる人へと成長してほしいと願っているのです。

かかわることから生まれる本当のコミュニケーション

令和5年度の始業式、そして入学式では、この春、本校を卒業したイマーナという生徒が卒業式で語ってくれた作文を紹介しました。この作文の中には、イマーナが日本に来てから卒業までのわずか一年余りの時間に、彼女が何を感じ、どのように過ごしてきたか、そしてこれからをどう生きていきたいか、そんなことがつづられていました。(次ページに全文掲載)

イマーナ自身の努力はもとより、周りで彼女を支えたクラスの仲間は、とても素晴らしいと思います。しかし一方で、彼女が怖がらせていると感じていたことや、もっともっとみんなと話をしたい、仲良くなりたいと思っていたことも知ることとなりました。怖がらせていたり、不安な気持ちにさせたりしていたのは、むしろまわりのほうかもしれないし、このことをもっと早く聞くことができたなら、また違ったかかわりもできたのではないのでしょうか。

イマーナの言葉は、彼女だけのことではないだろうし、外国籍の生徒に限った話でもないでしょう。コミュニケーションに不安のある人はたくさんいます。みんなが一人ひとり、まわりのすべての人のことを感じながら、時としてかかわりをつくる努力をすることが、誰にもやさしい集団、社会となるはずです。亀中での生活の中で大切にしていってほしいものです。

日本の常識は世界の非常識？

みなさんは写真を撮る時によくするポーズがあるでしょうか。よく使われるものに「ピース」サインというのがありますよね。アメリカなどでは「勝利」「平和」などの意味を持っていますが、ギリシャでは「くたばれ」という意味があるそうです。また手のひら側を自分に向けた「逆ピースサイン」は、イギリスやオーストラリアでは侮辱的な意味を持つそうです。日本人が当たり前と思っていることが、他国では全く違う習慣といえることは少なくありません。またそれと同じく、日本人にとっては違和感があっても他国においては日常的であったり、宗教上の意味などから大切な習慣であったりすることもたくさんあるのです。

私たちの大切な仲間の中には、右のイラストの左の女の子がまとっている「ヒジャブ」というスカーフをつける生徒がいます。これはイスラム教で「自分の肌や身を守るため、大人になるまでつけたほうがよい」と神様にすすめられるのだそうです。日本にはない習慣ですが、日本人が着物を着るのと同じぐらいに当たり前のことなのです。こうした文化や習慣の違いを知り、自分の国の文化を大切にすると同じように、他国の文化も尊重し、大切にできる気持ちや考えを持ってほしいものです。これからの中学校生活で、こうした人権や多文化共生についてもみんなで学んでいきましょう。



私は、日本の学校で勉強することができて、とてもしあわせです。それは、両親、先生、そして亀山中学校のみんなのおかげです。今日はその感謝を伝えたいと思います。

私は去年の2月に、スリランカから日本へ来ました。日本語は聞くことも、話すこともできませんでした。周りには今までと全く違う景色と、聞き取ることさえできない言葉でいっぱいでした。そして、4月から亀山中学校の3年生になることが決まりました。登校初日、私は本当に緊張していました。初めての外国の学校、初めての教室、読めない言葉がすごく怖かったです。私は学校に行きつづけることができるかなあと、とても不安でした。そんなとき、近くの席の男の子が私に英語で話しかけてくれました。今でも覚えています。What food do you like?と You are my best friend でした。彼にとってはジョークだったかもしれませんが、本当にうれしかったです。それから、クラスのみんなは、先生が言ったことを、タブレットを使いながら一生懸命通訳してくれたり、困ったことがあればすぐに助けてくれたりしました。本当に感謝しています。

少しずつたくさんの人と関わっていくなかで、あることに気がつきました。それは、私と話をすることに怖がらせてしまっていることです。私もみんなとおなじように日本語を話せたらと本当になんとも思いました。でも、みんなのやさしいことばからいくつもの日本語を学ぶことができました。どうか私と話すことを怖がらないでください。私は学校でみんなと話をしたいです。みんなと話をし、もっともっと日本語を上手に話せるようになりたいです。

そして、私には日本に来て新しい夢ができました。それは、「誠実な人になる」ことです。そのきっかけをくれたのは先生です。先生がたは、とても親切です。私たちひとりひとりのために、一生懸命になってくれます。家族に使うべき時間を使ってまで、遅くまで学校にいてくれます。そんな姿をみて、私も先生みたいに誠実な人になりたいと思うようになりました。目の前の私たちに一生懸命な先生のように、私もいま、勉強を一生懸命頑張っています。日本に来て初めて勉強が好きになりました。初めて勉強が自分の人生に必要なだと思えるようになりました。高校に入学して、もっと日本語の練習や、勉強をがんばり、将来は大学に進学したいです。

最後に、私のクラスメイトへ。私がついへんな思いをしているとき、困っているとき、どんなときでも私をたすけてくれて本当にありがとう。校長先生へ。先生と話をするとても温かい気持ちになります。いつもみんなを勇気づけてくれます。本当にありがとうございました。先生方へ。みなさんは私の第二の親です。私たちの将来をみちびいてくれて、ありがとうございました。

そして、お母さん、お父さん。ふたりの助けがなければ、私はここにいられませんでした。ふたりが私の夢をききいれてくれたからです。迷惑をかけていたらごめんなさい。本当にありがとう。